

1 単元名 小数÷小数

2 単元の目標

- ・小数の仕組みや計算のきまりを用いて、小数の除法の計算の仕方を考えようとする。
(算数への関心・意欲・態度)
- ・小数の除法の意味やその仕方について、既習の場合をもとにしたり、小数の仕組みや計算のきまりなどをもとに考えたりすることができる。(数学的な考え方)
- ・小数の除法の計算ができる。(数量や図形についての技能)
- ・小数の除法の意味やその仕方を理解する。(数量や図形についての知識・理解)

3 単元について

わり算には、等分除と包含除があるが、本単元では等分除に相当するわり算から導入する。単位量あたりの大きさを求めるわり算の意味の理解にあたっては、かけ算の場合と同じように、まず整数の場合を取り上げ、言葉の式で確かめさせる。続いて、小数の場合を取り上げ、言葉の式に当てはめて立式させるようにしている。わる数が小数になっても、整数の場合と同様に、わり算の式に表すことができるということを理解させることがポイントである。その際、数直線などを用いて、どちらも同じわり算を用いてよいことを統一的に見られるようにすることが大切である。計算や筆算についても、扱う小数の範囲を順々に広げて、筋道を立てて考えを進めるようになっている。

4 児童について

5年生になり、単元1で「整数と小数」、単元3で「小数×小数」という小数関連の学習を進めてきたが、小数倍や小数点の移動ということに少なからず苦手意識を感じている児童もいる。本単元の小数でわるという活動も、普段そういった機会が少ないので、戸惑いを感じる児童も多いと思われる。言葉の式に当てはめ、結果を求め、その答えの妥当性を認めながら、小数でわることへの理解を進めていかなければならない。授業中は積極的に自分の考えを述べようとする児童も多いが、自分の意見に固執する傾向があるので、友達の意見にも耳を傾けるよう指導している。

5 指導について

本単元では、等分除を扱って、(整数)÷(小数)、(小数)÷(小数)の意味がわかり、立式することができることをねらっている。そのためには整数のわり算で学習した言葉の式を用いて立式することが有効である。言葉の式に当てはめ、小数でわることを数直線を使って確かめさせる。この数直線によって、2量の関係がとらえやすく、言葉の式とともに立式する際に効果的な方法となる。式を解いていく段階では、幾つかの解き方が出てくるのが予想されるが、それぞれの良さを認めた上で、最終的には教科書の解き方に帰着するようにしたい。少人数を活かした話し合い活動などを取り入れ、今までに学習したわり算の意味、わり算の性質を利用しながら、小数でわることの意味やその仕方について理解を深めていきたい。

6 指導計画(12時間配当)

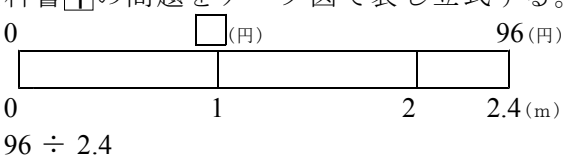
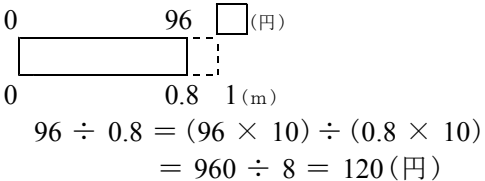
- | | | |
|-----|-----------------------------------|----------|
| 第1次 | 復習と準備運動(既習事項の復習、「小数÷小数」の準備) | (1時間) |
| 第2次 | 既習事項を踏まえ、日常の中で(整数)÷(小数)になる場面を考える。 | (1時間) |
| | (整数)÷(小数)の計算の仕方を理解する。 | (1時間 本時) |
| | (小数)÷(小数)の計算の仕方を理解する。 | (1時間) |
| | (小数)÷(小数)の筆算の仕方を理解する。 | (1時間) |
| | わり進んでいく筆算の仕方を理解する。 | (1時間) |
| | 商を四捨五入して概数で表す仕方を理解する。 | (1時間) |

- 余りのある小数のわり算で、そのときの余りの大きさについて考える。(1時間)
 被除数と商の大小関係を調べ、その関係について理解を深める。(1時間)
 第3次 練習 (1時間)
 たしかめ道場(学習内容の自己評価) (1時間)
 復習(既習事項の復習) (1時間)

- 7 本時の目標
 ・(整数)÷(小数)の計算の仕方が分かり、その計算ができる。

- 8 準備物 数直線図(テープ図)

- 9 本時の学習過程

学 習 活 動	支援(・)と評価(☆)
<p>○教科書①の問題をテープ図で表し立式する。</p>  <p>○96 ÷ 2.4の計算の仕方を考え、話し合う。</p> <p>わる数が小数の場合の計算の仕方について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2.4mは0.1mのいくつ分かをを考えて計算すればいい。2.4mは0.1mの24個分だから 0.1mのねだん… $96 \div 24 = 4$ (円) 1mのねだん… $(96 \div 24) \times 10 = 40$ (円) ・24mのねだんを求めてから計算すればいい 24mは2.4mの10倍だから 24mのねだん… $96 \times 10 = 960$ (円) 1mのねだん… $960 \div 24 = 40$ (円) <p>○計算の仕方を言葉でまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらもわる数を整数にしている。 ・小数でわる計算では、わる数とわられる数の両方に同じ数をかけ、わる数を整数になおして計算する。 <p>○$96 \div 0.8$を①の考えにあてはめて計算する</p>  <p>○③の計算をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を想起させることにより、小数でわるわり算の意味を確認する。 ・言葉の式に当てはめて立式し、それでよいことを確かめさせる。 <p>☆(整数)÷(小数)の計算も整数の計算と同じように計算できることを考えようとしているか。 (観察…関心・意欲・態度)</p> <p>☆(整数)÷(小数)の計算の仕方を小数の仕組みや計算のきまりをもとに考えることができるか。 (観察・ノート…数学的な考え方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの解決方法を比較させ、共通点を見つけさせることにより、わる数を整数にすることに気付かせる。 <p>☆(整数)÷(小数)の計算の仕方を理解しているか。(ノート…知識・理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わる数が1より小さい小数の場合は、商がわられる数より大きくなることを、テープ図を使って確認する。 <p>☆(整数)÷(小数)の計算ができるか。 (ノート…技能)</p>

- 10 授業の観点

- ・(整数)÷(小数)の計算の仕方について、話し合い活動を取り入れ、考えさせたことは、計算の仕方を理解する上で効果的であったか。